

図書館だより



2023年
4月14日発行

秋草学園高等学校 図書館

新年度が始まって1週間。新1年生のみなさん、入学おめでとうございます！今は毎日が新しいことの連続で忙しく過ごしているかと思いますが、少しずつ高校生活に慣れ、授業にも部活動にも学校行事にも積極的に取り組んでいきましょう。2、3年生のみなさんも引き続き、学校生活を楽しみながらそれぞれの目標に向かって頑張ってください。図書館はいつでもみなさんの学校生活を応援しています。本好きの人はもちろん、日頃本に触れる機会が少ない人にも「図書館に行ってみようかな」と思ってもらえるよう、様々な情報を発信していきたいと思います。

2023年本屋大賞に輝いたのは！！

速報！ 2023年本屋大賞 受賞作

913.6-ナ『汝、星のごとく』

尻良 ゆう 著 講談社

尻良ゆうさん、受賞おめでとうございます！

受賞のスピーチで尻良さんは、自身と本屋大賞についてお話をされていました。

『流浪の月』（東京創元社）で2020年本屋大賞を受賞したのは、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言が初めて東京に出されたばかりの頃。その時の思いと今回の受賞に対する思い、ふたつの思いが重なった感動スピーチは、本屋大賞公式YouTubeから見るができます。公式ページは[こちらをクリック](#)

大賞を受賞した『汝、星のごとく』は、「現実社会の中で、男女が一对一でしっかり向き合う話を書いてみたいと思ったのがはじまり」なのだそう。（文藝春秋インタビューより）尻良さんが初めて書いたという男女の恋愛はどんな物語なのか、次回の図書館だよりで紹介していきます。楽しみにしててください。今回の紙面では2020年本屋大賞受賞作『流浪の月』を紹介します。

『汝、星のごとく』と2023年本屋大賞ノミネートの9作は図書館で展示中です。どれも魅力ある本ばかり。たくさん読んでください。



●2020本屋大賞受賞作

913.6-ナ『流浪の月』 尻良 ゆう 著 東京創元社

女兒誘拐事件の被害者と加害者。更紗と文はそう捉えられ、報じられた。しかし、更紗にとって文は自分を救ってくれた存在。世間の認識と自分の内にある思いのズレに苦しみながら大人になった更紗はある日偶然、文を見つけてしまう。この再会はどんな未来を導くのか。

図書館にはいつも何かが待っている！？

B913.6-オ『深夜0時の司書見習い』

近江 泉美 著 KADOKAWA

札幌へホームステイに来たアンを待っていたのは、真夜中の図書迷宮でしゃべる猫に脅されて、司書見習いとして働く、という奇想天外の展開！初めは逃げ腰だったアンだが、そこでの出会いや体験を通し、本のおもしろさに気付いたり、勇気を持って立ち向かう強さを身につけていく。

913.6-ナ『図書室のはこぶね』

名取 佐和子 著 実業之日本社

体育祭の一週間前、準備に沸き立つ校内の片隅でひそかに活気づく場所があった。そこは図書室。代理で図書当番にきた百瀬が見つけた1冊の本が図書室を巻き込む大きな謎に膨らんでいく。10年ぶりに見つかった行方不明の本と体育祭、無関係に見えるふたつが次第に繋がっていく！



新着コーナーの気になる本

913.6-ム『不思議カフェ NEKOMIMI』

村山 早紀 著 小学館

人生を終えかけた時、猫の姿をした魔神の力で、魔法使いへと生まれ変わった律子。彼女は誰かを少しだけ幸せにできることを願いながら、空飛ぶ車で旅に出る。その思いのとおり心優しい彼女の魔法は人も妖怪も神様もみんなをあたたかな気持ちにしてくれる。

914.6-ミ『好きになってしまいました。』

三浦 しをん 著 大和書房

『舟を編む』『風が強く吹いている』などの著者 三浦しをんさんのエッセイ集。日常生活では可愛い植物たちのため虫や鳥と戦い、旅先では人との出会いや思いがけない体験を楽しみ、読書記録では夏目漱石のツンデレっぷりを語り、読む人に笑いと元気を分けてくれる一冊。

□ 司書の今月はこの本読みました

979.1-サ『千葉からほとんど出ない引きこもりの俺が、一度も海外に行ったことがないままルーマニア語の小説家になった話』 済東鉄腸 著 左右社 なんと長い題名が気になって、手に取りました。まるでライトノベルかサスペンスドラマのような長さですが、本当に作者の身におきた出来事の本です。ネット環境なら、引きこもりだってルーマニア語を学習できるし、ルーマニア人の友達もできます。そうした出会いによって道は拓けていきます。“自分のためにこそ人生をいきろ” 4月にふさわしい、始める勇気が沸く本でした。【鈴木】